



まちを元気にする 主役は…。

皆さんが住んでいる地域は元気ですか？活気がありますか？
地域社会でより明るくいきいきと生活するため、
私たちは何をすべきなのか。
今回は、若者に焦点をあて考えてみましょう。

課題その 1

このままでは 若者がいなくなる！？

右グラフのとおり、当別町の人口が2万人を超えた平成10年度以降は減少しており、平成25年度には1万7,000人台となりました。特に、地域を支える若者世代の減少が著しく進んでいます。このことから、基幹産業である農業をはじめ、町内の事業所で働く後継者(担い手)が減少しているという現状があります。

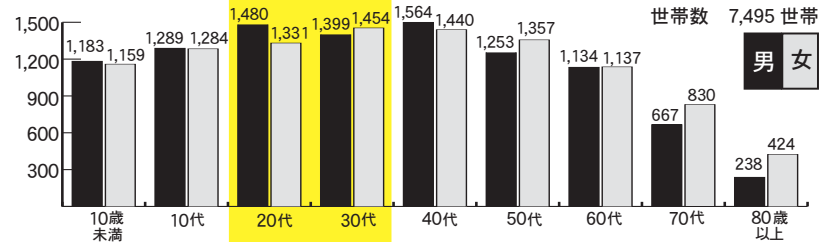
また、26年後(2040年)には、主な出産世代である20～39歳の女性人口を、平成22年度と比べてみると76.3%減少するのではないかと報道もされており、更に少子化が進む可能性が危惧されています。

若者の更なる減少は、即ち、まち全体の活気が失われるほか、「**まちの存続**」そのものにも大きな影響を与えます。

●人口・世帯の動態

平成10年10月1日

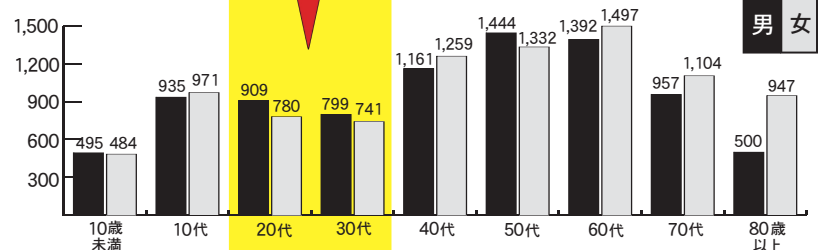
(単位:人)



30代以下の人口減少が目立ち、少子高齢化が進んでいます。

平成25年10月1日

(単位:人)



課題その 2

若者と地域との 関わりの希薄化

隣近所に住んでいる方が分からない、挨拶をしたことがないなど、住民同士の関係性が希薄化しているなかで、行事などに若者世代があまり参加しない地域も増えてきています。

また、実際に町内で働く若者世代の行動範囲は、自宅と職場の行き来のみで、同僚や上司との関わりが中心となり、町外出身の新社会人は行動範囲が更に限定されてしまうケースも見受けられます。周囲に顔見知りがない、話したこともない、そんな若者にとって地域とは、単なる生活の糧としての労働している場所に過ぎないのかもしれませんが。

打開策を考えてみる

始まりは「きっかけづくり」から

若者が地域に溶け込めるような、「世代間のコミュニケーションづくり」を考えてみましょう。

例えば、地域の行事に招待したり、企画段階から打合せ等に参加してもらいアイデアを出してもらったり、また、挨拶をしてみたり、会話をしてみるなどが考えられます。

きっかけづくりはスムーズにはいかないかもしれ



若者世代が地域を盛り上げようと取り組む事例として商工会青年部のビアパーティーがあります。

長年、継続してきた結果、現在では夏の風物詩として地域に根付き、町内外からたくさんのお客さんが訪れるイベントになり、地域に明るい話題と活気を与えています。

ません。しかし、何か行動を起こさない限り若者との接点は生まれません。世代間の信頼関係づくりこそ地域社会再生の「鍵」となります。また、若者世代が望むこと、考えていることは何かということにも地域が耳を傾けてみることも大切です。若者ならではの「なるほど」と思えるアイデアが提案されるかもしれません。

具体的な取り組み例

社会人として町内で働く若者（勤務3年未満）を対象とした「フレッシュ社会人交流会」が5月9日開催され、各事業所から35名が参加しました。主催者の当別町商工会（次世代育成特別委員会）に開催の目的を伺いました。

働く若者に安心感を

町内で仕事をする若者相互の交流・親睦を図ることで、町内で暮らし働く上での安心感を生むとともに、若者の定着と町内購買の拡大につなげることを目的に企画しました。開催してみると、町外出身者も多い中、参加者の積極的に異業種の方々と触れ合う姿が多く見られ、安心し、将来への明るい希望が持てました。このような事業をきっかけに、若者がもっとまちに親しみを持っていただければと願っております。

私自身も数年前に東京から当別にUターンした一人で、それは東京よりも当別での生活が豊かだと考えたからです。まちの魅力は、そこに住む人の魅力であり、魅力がなければ若者は離れていきます。当別が更に良いまちになるためには、若者の活動に温かい眼差しを向け、若者の言葉にじっくり耳を傾け、若者をひたむきに信じる心が必要ではないかと思えます。

今後は各事業所にもご協力いただき、若者の声を反映するためのアンケート調査や、このまちで行われている行事にも積極的に参加していただくなど、若者が主体的にまちづくりに関わるための環境整備につなげていければと考えています。

また、6月21日に「とうべつ♥まちコン」を行います。今回3回目の開催となり、実際にゴールインされるカップルが誕生しており、多くの方々に参加して欲しいと思います。



当別町商工会（次世代育成特別委員会）
副委員長 内海 太郎さん



交流会に
参加した皆さん



始めは緊張した面持ちで名刺交換から



時間の経過と共に打ち解け会話が弾みます



○×ゲームも行われ会場は盛り上がりました

交流会の様子

若者が感じたことは

交流会に参加した方の中には、一度、町外で就職したものの、「ふるさと」で働きたいとの思いからUターン組として頑張る若者もいます。彼らはどのような思いを持っているのでしょうか。

同世代のつながりも必要

友人に自慢できるまち

「働くなら当別で就職したい」とずっと思っていました。学生時代から友人に「当別は魅力あるまち」と伝えたくて、自宅に遊びに誘ったり、何か当別のためにやってみたいと考えていました。役場職員として4月より勤務していますが、早く仕事を覚え、住民の皆さんにスムーズな対応が出来るよう頑張りたいと思います。交流会では、小中学校の同級生や部活の後輩とも再会できましたし、今後も互いの情報交換を兼ねて交流を深めていきたいと思っています。



当別町役場 佐野 純希さん

人のやさしさを感じる

高校卒業後、都会に憧れ、札幌市の企業で約8年間働いていました。縁あって当別で働くことになりましたが、正直、悩みました。他の仕事をしてみたいという思いもありましたが、やはり決め手になったのは、「生まれ育ったふるさと」であるということです。安心感がありますよね。地元に戻り一番感じていることは、「人が優しい」ことです。交流会に参加し、様々な業種の方と知り合えたことはとてもプラスになりました。



宮永建設株式会社 さいだ 才田 麻衣子 さん

ふれあえる喜び

大学を卒業後、東京で6年間、建築関係の企業で働いていました。仕事や生活面においても、不自由はありませんでしたが、やはり当別で仕事がしたいと思い、今年4月より当別町で再スタートしました。学生時代の友人もいますし、何よりも都会には無い「人とのふれあい」があるのが一番嬉しいです。帰ってきて良かったと思います。職場や関係者のみならず、他の業種の方と触れ合えた交流会で知り合った方とのつながりは、今後も大切にしていきたいと思いき、可能な限りイベントや地域の行事に協力させていただきたいと考えています。



大栄建工株式会社 山田 直也 さん

次世代を担う若者たちは、このまちに対する思いを持って日々、頑張っています。これからの地域づくり、そして、まちづくりの救世主となりえる若者は、「大切な宝」であり、地域にしっかりと根を張り、当別町の明るい未来を担ってもらうために、周囲の理解や協力、そして手助けが必要ではないでしょうか。